

(1) 大学・学科の設置理念

①大学

東京農業大学は国内外でも類を見ない農学系の総合大学として、人類生存の基盤となる農業およびその関連産業を支える学問である農学、生命科学、環境科学、バイオ産業学など農学全般の教育研究に取り組んでいる。東京農大精神は「質実剛健」「独立不羈」「自彊不息」で、現代風にいえば「物質主義に溺れることなく、心身ともに健全で、いかなる逆境にも挫けない気骨と主体性の持ち主たれ」ということである。また本学のモットー「実学主義」は、社会が実際に必要とする研究を重視する実用的で実際の学問のあり方を意味する。

②学科等（教職課程を有する学科のみ）

自然科学と社会科学の両領域からなる科目を配し、さらに、国内外の農業実習・研修を積極的に取り入れ、「専門性を活かした総合的アプローチ」をモットーに、農業・農村開発協力を通じて国際貢献のできる人材を養成する。

(2) 教員養成に対する理念・構想

①大学

初代学長横井時敬は「人物を畑に還す」と言った。この言葉通り本学は開学以来全国から若者を集め、地域に貢献する人物となるよう教育してきた。教員養成においても同様で、履修者が卒業後に全国各地で教育者として活躍することを目標とし、この東京農大精神と実学主義のもと、豊かで実践的な知識と技能を身につけた心身ともに健全な教員の養成を目指している。

今日、生命科学は進歩が速く、農学や環境科学には社会からの期待が大きい。本学教職課程ではこのような動向を踏まえ、学部段階では学科の基礎と教員としての基本的かつ実践的な知識と技術を習得させる教育を行う。

②学科等

国際農業開発学科では、環境保全に配慮した農業開発を推進するために必要な研究をおこなうとともに、国際的な視野で農業開発を実践する人材の育成に教育の目的をおいている。具体的には、「農業ができる人」、「途上国の開発をになう人」、「国際協力に貢献できる人」をそだてることを目標とし、これにもとづいたカリキュラムを編成している。したがって、教員養成についても、こうしたマインドを保持しつつ、各認定課程において必要な知識やスキルを有する、有能かつ人間性ゆたかな教員を輩出することをめざしている。

(3) 認定を受けようとする課程の設置趣旨

高一種免許科

高等学校教育に必要な総合的知識を身につけるとともに、植物および動物の生理・生態、生物の遺伝、生態系など、農業と環境にかかわる専門的知識を習得することによって、総合的かつ実践的な理科教育を遂行できる教員を養成することを本教職課程の目的とする。

1年次で履修する総合教育科目では、大学生活の心がまえをまなび、レポート・論文などの作成技術や情報リテラシーの基礎を習得すること、中等教育の国際化に即応することを目的として、「フレッシュマンセミナー」、「共通演習」、「情報基礎（一）（二）」、「英語（一）（二）」

（三）（四）」を卒業要件となる必修科目として配する。また健全な心身の修練をはかることを目的として、「スポーツ・レクリエーション（一）（二）」を教職必修科目として配する。

1～3年次で履修する専門教育科目では、国際農業開発学にかかわる科目のうち、教科に関連のある「熱帯作物保護学総論」、「作物害虫学」、「作物病理学」、「熱帯植物生態学」、「熱帯昆虫生態学」、「作物育種学」、「水環境学」を教職関連科目として配する。